

# 加古川市上下水道事業運営審議会資料

令和7年11月17日

# 目次

●加古川市水道事業の現状	3
・組織の状況	4
・財務の状況	7
・施設の状況	9
●今後の需要予測について	14
●水道事業の収支の概要	18

# 加古川市水道事業の現状

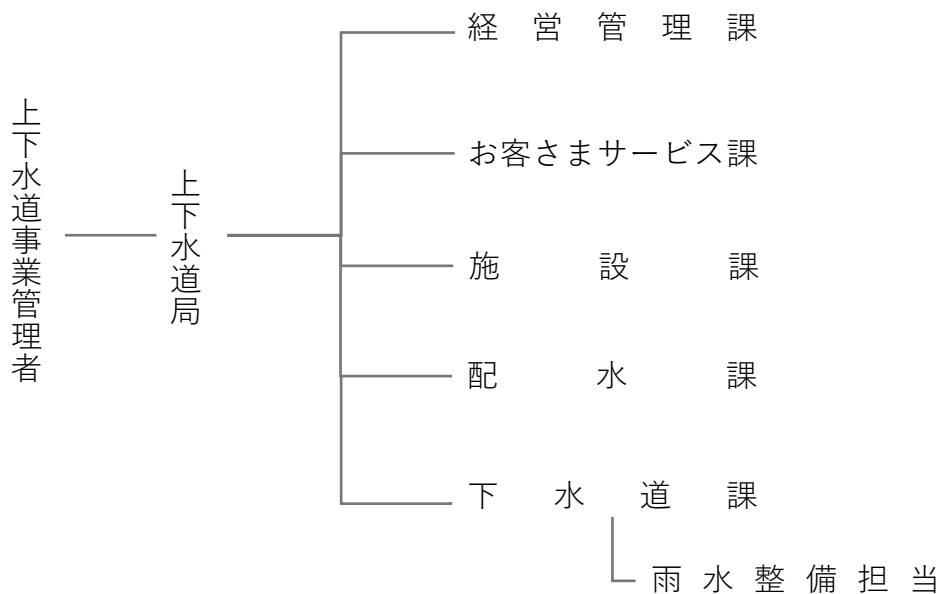
## 組織の状況 (1/3)

上下水道局の職員数は、多少の変動は見られるものの大きな増減はなく、令和2年度から安定した推移を示しています。

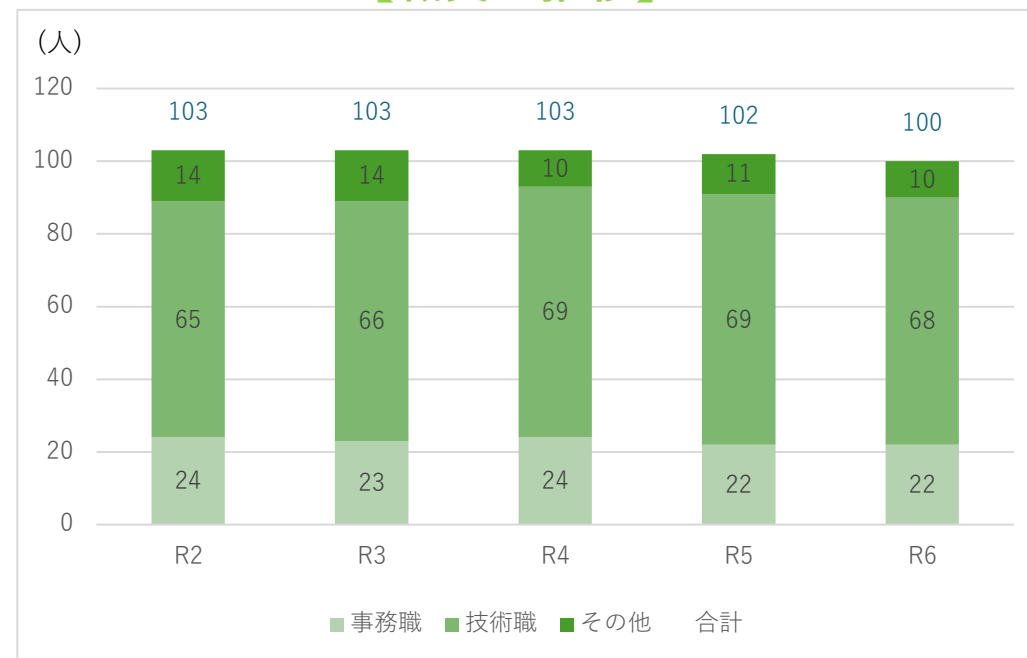
## 【上下水道局の組織図】

- ◆ 平成27年度に水道局と下水道部が組織統合をして上下水道局となりました。
- ◆ 令和7年3月31日時点で100名（うち、事務職22名、技術職68名、会計年度任用職員8名、その他2名）となっています。

## 【組織図】



## 【職員の推移】



## 組織の状況 (2/3)

現状ではバランスの取れた職員の年齢構成となっているものの、今後職員が高齢化していくに伴う課題が発生することが見込まれています。

## 【上下水道局年齢別職員構成】

- ◆ 令和7年3月31日時点の上下水道局年齢別職員構成は下記のとおりです。
- ◆ 平均年齢は特段問題のない数値が示されているものの、技術職において55歳以上の職員が16人（23.5%）と多いことから、若手職員への技術やノウハウの継承が課題になります。

区分	事務職		技術職		技術労務職		計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率
25歳未満	0	0.0	2	2.9	0	0.0	2	2.2
25歳以上30歳未満	3	13.6	8	11.8	0	0.0	11	12.1
30 〃 35 〃	5	22.7	10	14.7	0	0.0	15	16.5
35 〃 40 〃	9	40.9	8	11.8	0	0.0	17	18.7
40 〃 45 〃	1	4.6	7	10.3	0	0.0	8	8.8
45 〃 50 〃	2	9.1	2	2.9	0	0.0	4	4.4
50 〃 55 〃	2	9.1	15	22.1	1	100.0	18	19.7
55歳以上	0	0.0	16	23.5	0	0.0	16	17.6
合計	22	100.0	68	100.0	1	100.0	91	100.0
平均年齢	36.5		43.6		53.0		42.0	

※上下水道事業管理者及び会計年度任用職員を除く

## 組織の状況 (3/3)

経験年数が浅い職員の割合が高いため、十分なノウハウがある職員を確保することが求められています。

## 【上下水道局勤続年数別職員構成】

- ◆ 令和7年3月31日時点の上下水道局勤続年数別職員構成は下記のとおりです。
- ◆ 現状は全体の構成のバランスに特段の偏りは見受けられないものの、今後数年の間に大量のベテラン職員の定年退職が見込まれるため、職員異動があっても業務に支障がないように、経験年数の浅い職員へのノウハウの継承が課題になります。

区分	事務職		技術職		技術労務職		計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率	実数	比率
3年未満	10	45.5	14	20.6	0	0.0	24	26.3
3年以上5年未満	6	27.3	9	13.2	0	0.0	15	16.5
5   〃   10   〃	3	13.6	17	25.0	0	0.0	20	22.0
10   〃   15   〃	3	13.6	9	13.2	0	0.0	12	13.2
15   〃   20   〃	0	0.0	8	11.8	0	0.0	8	8.8
20   〃   25   〃	0	0.0	3	4.4	0	0.0	3	3.3
25年以上	0	0.0	8	11.8	1	100.0	9	9.9
合計	22	100.0	68	100.0	1	100.0	91	100.0
平均勤続年数	3.9		10.3		31.9		9.0	

※上下水道事業管理者及び会計年度任用職員を除く

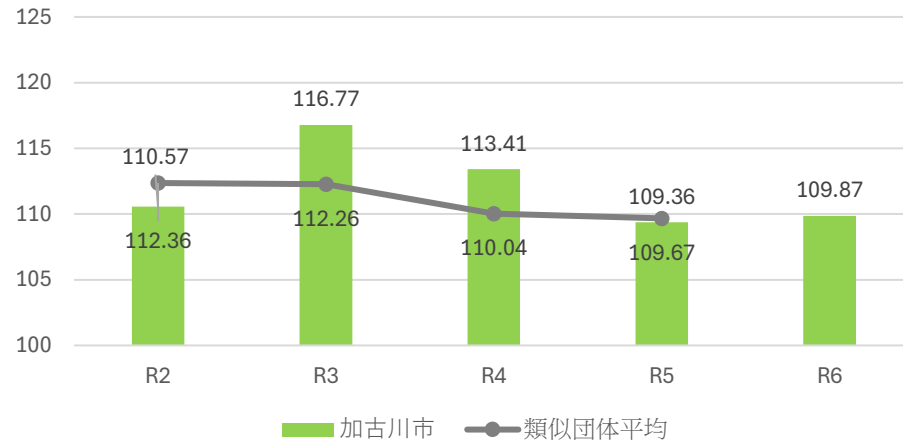
## 財務の状況 (1/2)

加古川市の財務の状況は類似団体と比較しても優位な状況を示していますが、給水原価、企業債残高については引き続き注意しておくべき指標となっています。

## 【財務の状況を示す指標の他団体比較分析】

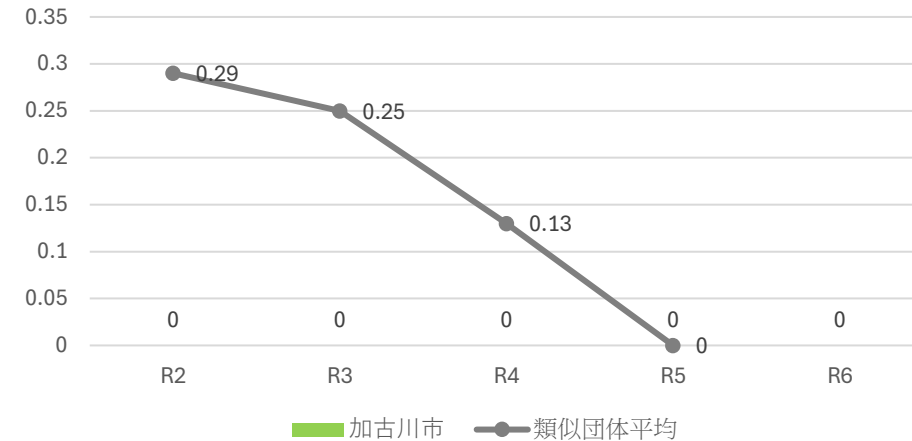
- ◆ 財務の状況については、多くの経営指標で類似団体平均と比べて高い水準となっています。
- ◆ 一方で、給水原価が他団体よりも優位な状況であり令和6年度で少し改善されたものの、物価上昇や施設の更新工事に伴う減価償却費の増加等の影響で上昇傾向にあり、当該影響により料金回収率も悪化する傾向にあります。
- ◆ 企業債残高は他団体と比べてやや高い水準（劣位な状況）にあるため、引き続き、計画的な残高コントロールによる適切な管理が必要です。

①-1 経常収支比率（％）【↑】



$$(\text{経常収益} \div \text{経常費用}) \times 100$$

①-2 累積欠損金比率（％）【↓】



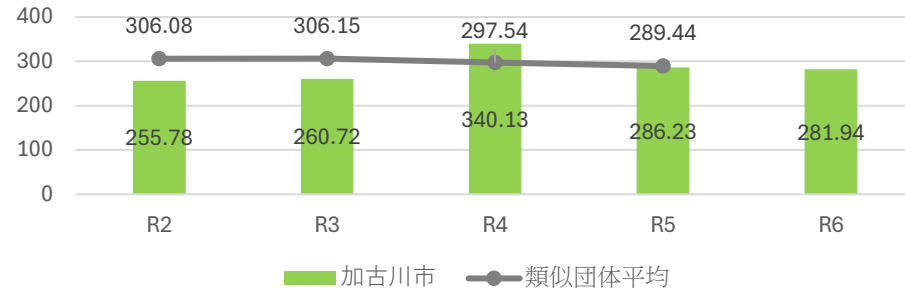
$$(\text{当年度未処理欠損金} \div (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})) \times 100$$

※経営戦略、決算書、決算統計データに基づく比較を示しています（以下同様）。

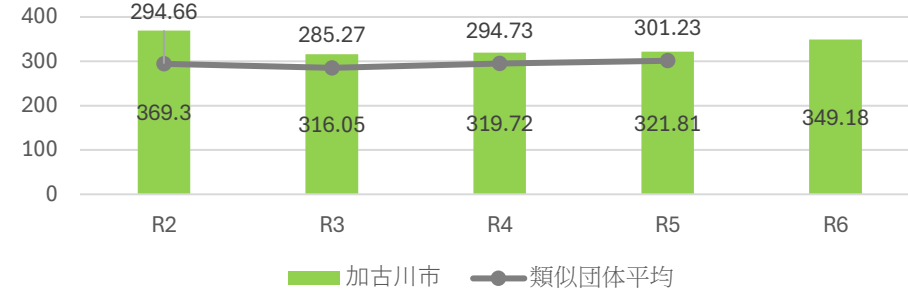
※グラフ中の【↑】は上昇した方が望ましい指標、【↓】は減少した方が望ましい指標であることを示しています（以下同様）。

## 財務の状況 (2/2)

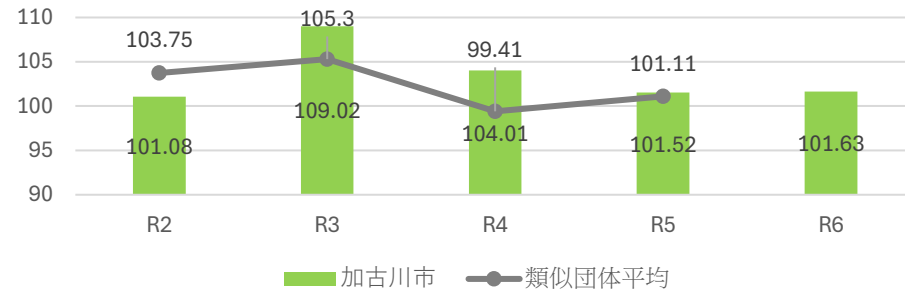
①-3 流動比率 (%) 【↑】



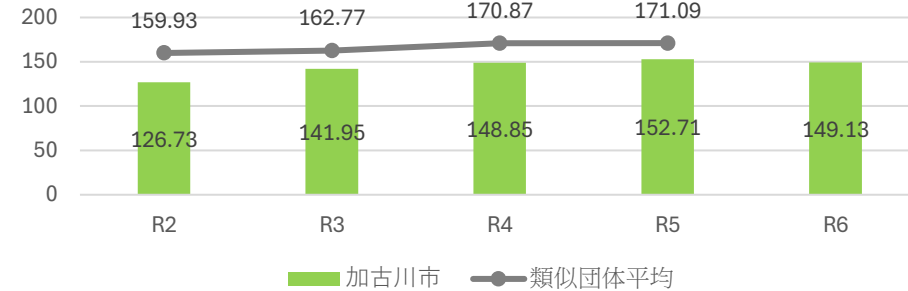
①-4 企業債残高対給水収益比率 (%) 【↓】



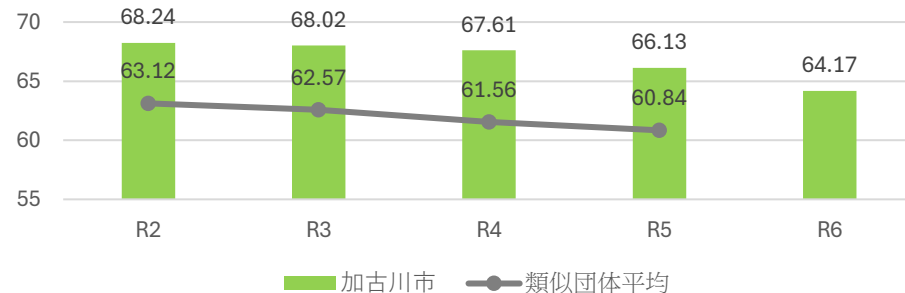
①-5 料金回収率 (%) 【↑】



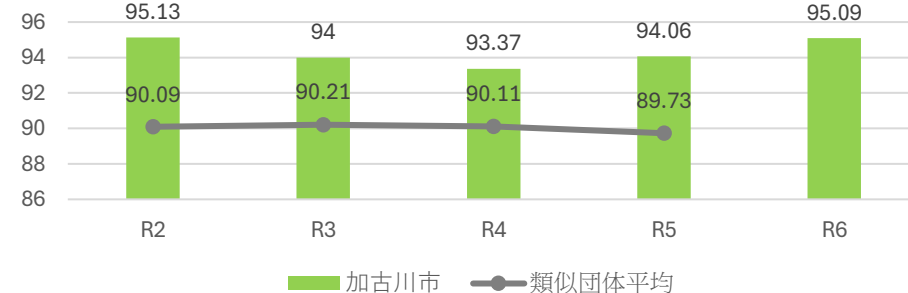
①-6 給水原価 (円) 【↓】



①-7 施設利用率 (%) 【↑】



①-8 有収率 (%) 【↑】



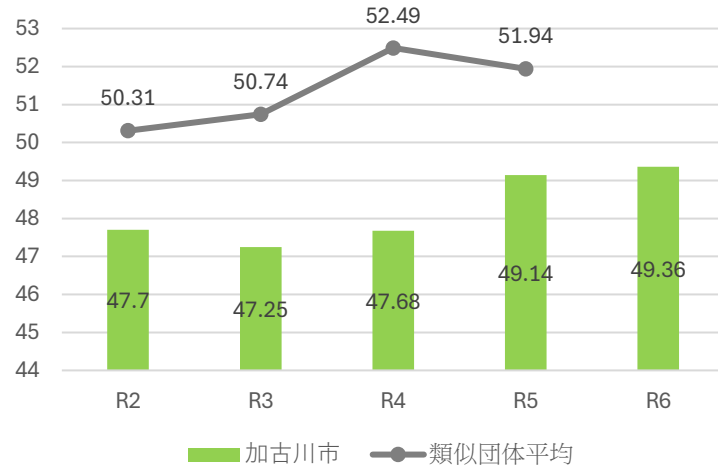
## 施設の状況 (1/5)

施設の老朽化は進んでいるものの、「老朽管更新（耐震化）計画」に基づき、計画的に施設の更新を進めています。

### 【老朽化の状況を示す指標の他団体比較分析】

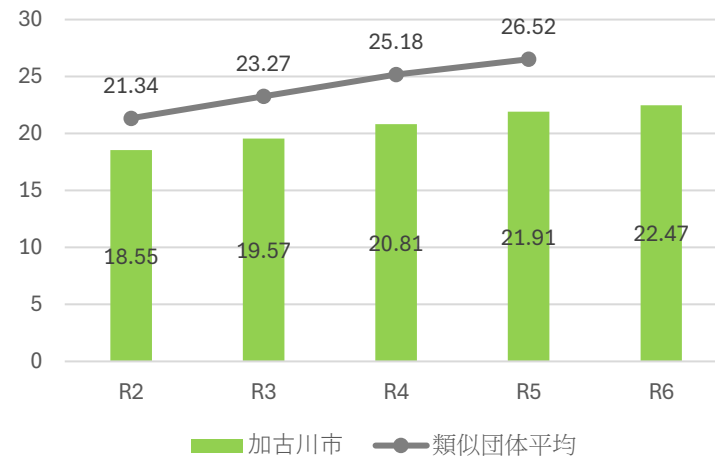
- ◆ 有形固定資産減価償却率が低く、施設の経年化は他団体よりも進んでいない状況といえます。
- ◆ 一方で、管路更新率は他団体よりも低い水準で推移しておりましたが、令和6年度では継続費事業として実施した主要配水幹線が完成したことによって1.45%にまで改善しております。

②-1 有形固定資産減価償却率（％）【↓】



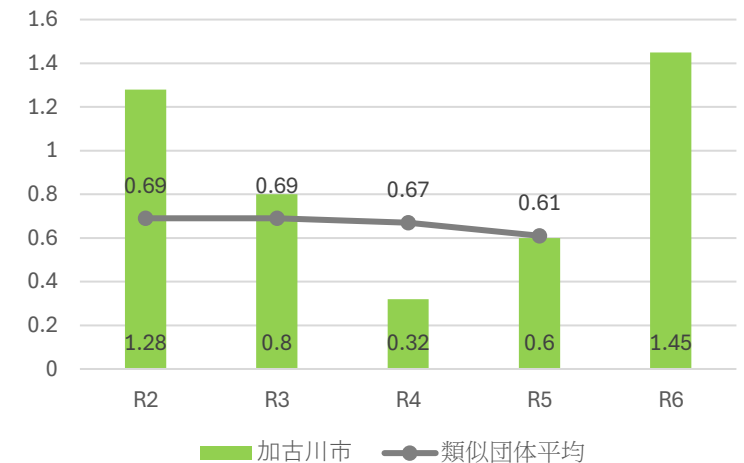
$\left( \frac{\text{有形固定資産減価償却累計額}}{\text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}} \right) \times 100$

②-2 管路経年化率（％）【↓】



$\left( \frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \right) \times 100$

②-3 管路更新率（％）【↑】



$\left( \frac{\text{当該年度に更新した管路延長}}{\text{管路延長}} \right) \times 100$

## 施設の状況 (2/5)

各水源・水道施設の詳細な状況を示しています。

## 【水源・水道施設】

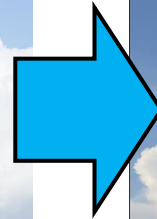
項 目	施設の概要	設置年	備 考	課 題
水 源	地下水 (浅井戸：20井、深井戸：1井)	S28～S63		取水量の低下
	加古川河川水 (表流水)	S49～		水質 (かび臭)
	兵庫県営水道 (浄水受水)	H1～		水源が不安定・単価が高い
浄水場	中西条浄水場 (粉末活性炭処理＋急速ろ過)	S49～		
水源地	中津水源地 (塩素消毒)	S28	将来的に廃止予定	施設の老朽化
	神野水源地 (中西条浄水場で浄水処理)	S42	将来的に廃止予定	施設の老朽化
	大野水源地 (除マンガン処理)	S46		施設の老朽化
	中西条水源地 (中西条浄水場で浄水処理)	S49	R8年度設備更新予定	
	東神吉水源地 (除鉄・除マンガン＋エアレーション＋紫外線処理)	S63～	耐震性有	
	西部水源地 (エアレーション＋紫外線処理)	S34～	耐震性有	
配水池	城山配水池 (2池、容量 10,000m3)	H28	耐震性有	
	福留配水池 (2池、容量 55,600m3)	S62～	耐震性有	
	投松配水池 (1池、容量 3,000m3)	S49		予備池がない
	宮山配水池 (1池、容量 1,000m3)	S42	将来的に廃止予定	
	細工所配水池 (1池、容量 120m3)	S50	R10年度更新予定	
	上原配水池 (1池、容量 500m3)	H8		容量過大、予備池がない
ポンプ場	投松ポンプ場 (投松配水池へ揚水)	R4	耐震性有	
	細工所ポンプ場 (細工所配水池へ揚水)	S50	R10年度更新予定	
	上原ポンプ場 (上原配水池へ揚水)	H8		停電時運転不可
	都台加圧ポンプ場 (都台、白沢地区を加圧)	R3	耐震性有	
	下村加圧ポンプ場 (下村地区を加圧)	S53～	R7年度更新予定	
	行常加圧ポンプ場 (行常地区を加圧)	S56		停電時運転不可
	新在家加圧ポンプ場 (バイパスより南の新在家地区を加圧)	H28	耐震性有	
	幸竹加圧ポンプ場 (土山地区を加圧)	S62～		停電時運転不可
管路	平岡加圧ポンプ場 (バイパスより北の新在家地区を加圧)	H6		
	導水管：1.7km、送水管：4.8km、配水管：1,145km (口径50～1,350)	S30～		老朽化・耐震化対策

※配水池、ポンプ場の設置年は更新工事が終わってれば、更新後の年を入力しています。

## 施設の状況 (3/5)

### 【中西条浄水場 高架水槽】

中西条浄水場 高架水槽 (旧)



中西条浄水場 高架水槽 (新)



## 施設の状況 (4/5)

### 【福留配水池、下村加圧ポンプ場】

福留配水池



下村加圧ポンプ場



## 施設の状況 (5/5)

## 【尾上町今福における漏水写真】



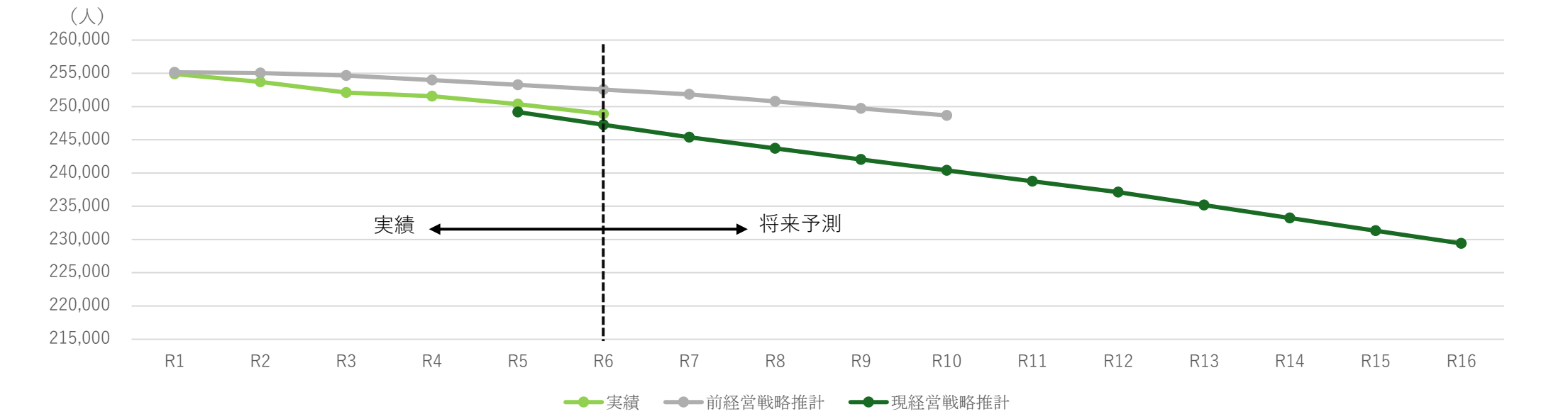
# 今後の需要予測について

# 人口・水量・給水収益の動向（1/3）

前経営戦略で推計した人口減少の推移よりも、現経営戦略ではさらに人口減少が進む予測となっています。

## 【給水人口の推移】

- ◆ 加古川市の行政区域内人口は令和6年度で256,466人となっており、減少傾向が続いています。
- ◆ 給水人口（水道事業から給水を受けている人口）は令和6年度で248,891人となっています。行政区域内人口の減少に伴い、この10年間で約4.1%の減少となっており、現経営戦略（令和7年度～令和16年度）策定時点の推計では令和16年度には229,414人まで減少する見通しになっています。



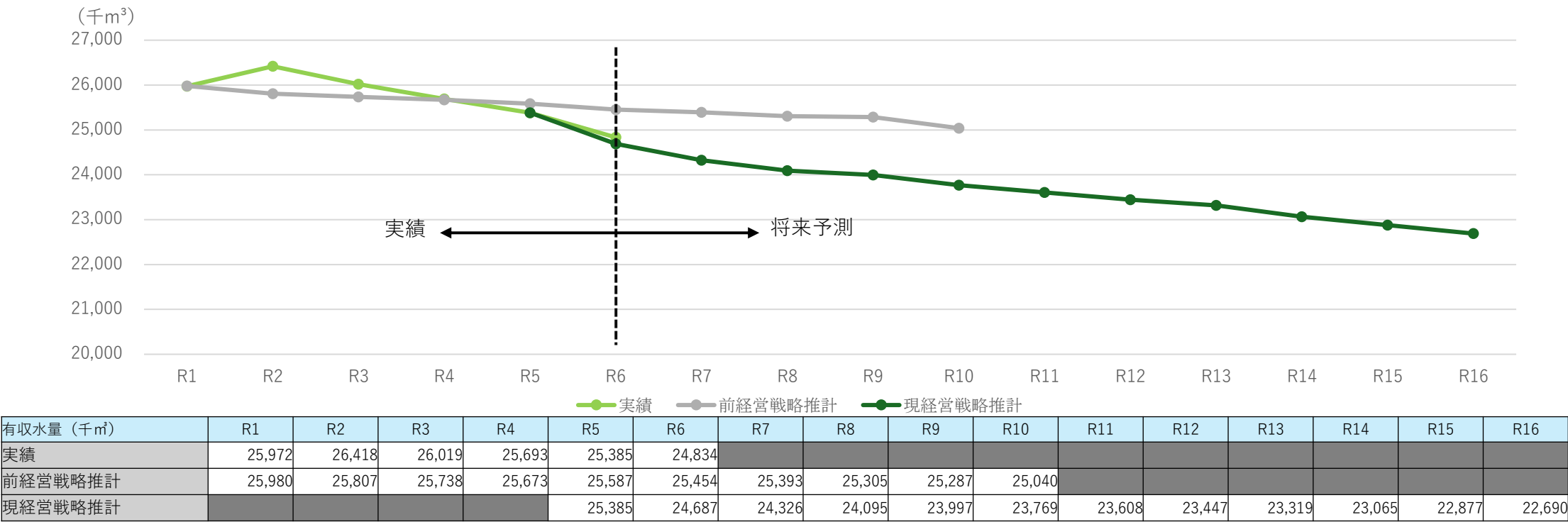
給水人口（人）	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
実績	254,892	253,728	252,126	251,581	250,363	248,891										
前経営戦略推計	255,162	255,054	254,685	253,970	253,255	252,541	251,827	250,775	249,723	248,671						
現経営戦略推計					249,182	247,280	245,394	243,717	242,053	240,400	238,758	237,127	235,175	233,238	231,318	229,414

# 人口・水量・給水収益の動向（2/3）

人口の将来数値が減少傾向であることに連動して、有収水量においても将来数値が減少していくことを示しています。

## 【有収水量の推移】

- ◆ 有収水量（給水する水量のうち、料金として収入のあった水量）は、人口の減少等に伴い、この10年間減少傾向で推移しており、令和6年度で24,834千m<sup>3</sup>となっています。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、在宅時間の増加による一般家庭の使用水量が増加したため、一時的に増加しています。
- ◆ 令和6年度に大口需要家の水源転用に伴い有収水量が大きく減少しており、令和7年度以降については、給水人口と連動して徐々に減少する見込みとなっています。

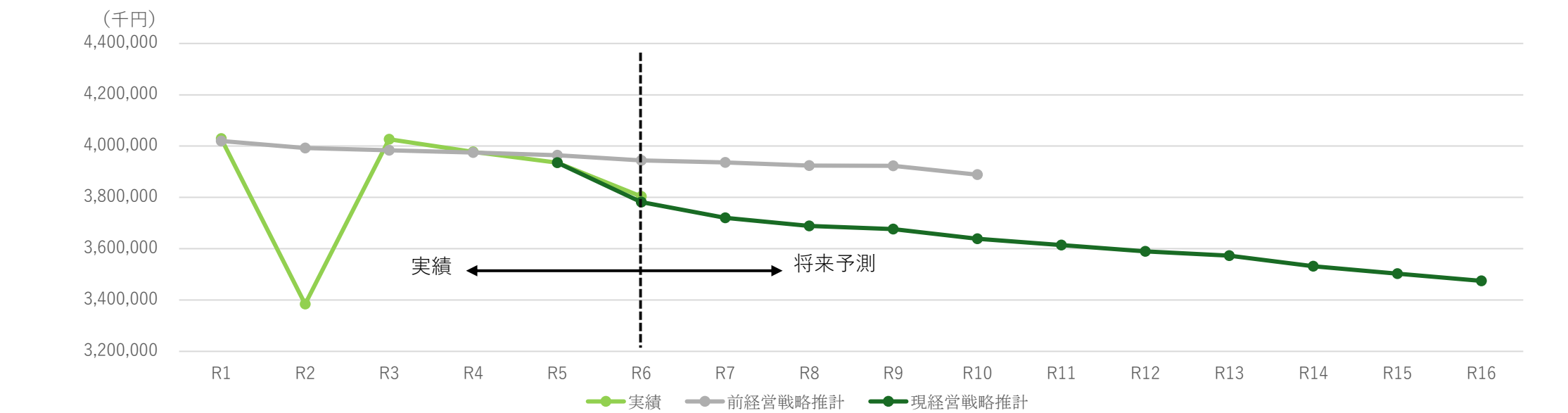


# 人口・水量・給水収益の動向（3/3）

有収水量の将来数値が減少していくことに伴って、給水収益においても将来数値が減少していくことを示しています。

## 【給水収益の推移】

- ◆ 有収水量の減少に伴い料金収入についても、この10年間減少傾向で推移しており、令和6年度で3,804,230千円となっています。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る水道料金の減免等の影響で、一時的に落ち込みが激しくなっています。
- ◆ 現経営戦略においては、前述の大口需要家の水源転用等を含む有収水量の減少により、給水収益も減少する見込みとなっています。



料金収入（千円）	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
実績	4,029,767	3,384,182	4,026,595	3,978,006	3,935,731	3,804,230										
前経営戦略推計	4,020,000	3,992,176	3,984,071	3,974,616	3,964,198	3,944,583	3,936,026	3,924,115	3,923,012	3,888,642						
現経営戦略推計					3,935,731	3,781,949	3,720,095	3,688,714	3,676,287	3,639,089	3,614,531	3,590,141	3,573,058	3,531,984	3,503,265	3,474,782

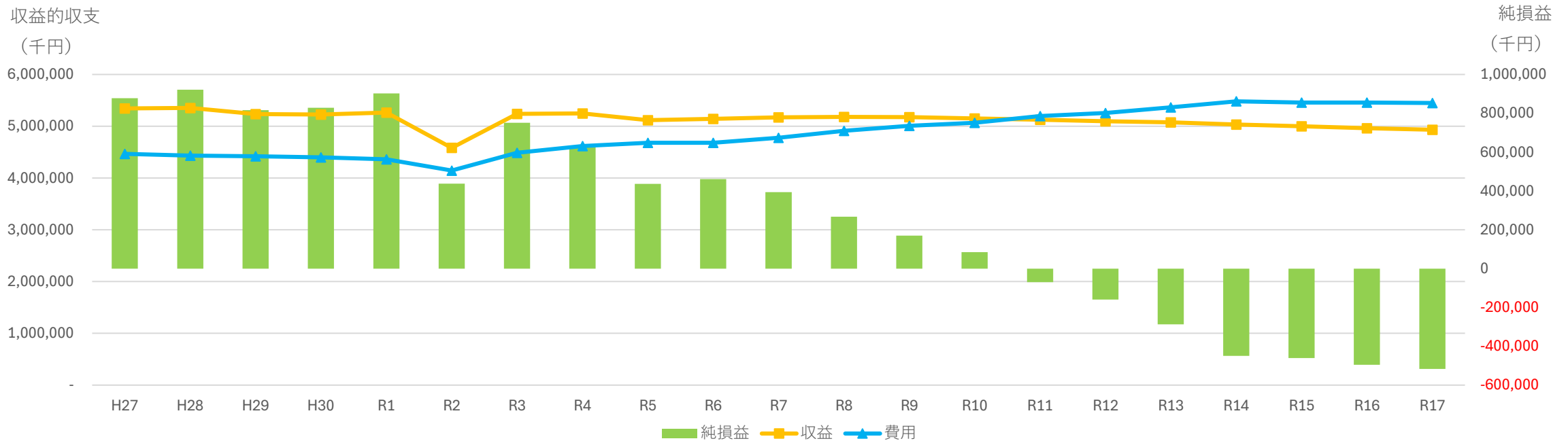
# 水道事業の収支の概要

## 収支及び資金残高の状況（1/4）

収益が減少傾向にある一方で、費用が増加傾向にあるため、利益の確保が難しくなっていく状況にあり、料金改定等の対策を行わない場合、将来的に収益的収支が赤字に転じる見込みとなっています。

### 【収益的収支の推移】

- ◆ 水道事業の収益的収支は、収益面では、令和2年度に料金収入が一時的に減少した後に令和3年度に回復し、その後は横ばいで推移しています。一方で、費用面では、減価償却費や動力費、委託料等が増加傾向で推移しています。
- ◆ 純損益は減少傾向にあり、料金改定等の対策を行わない場合、令和11年度に赤字に転じることになり、その後は赤字が拡大していく見込みになっています。

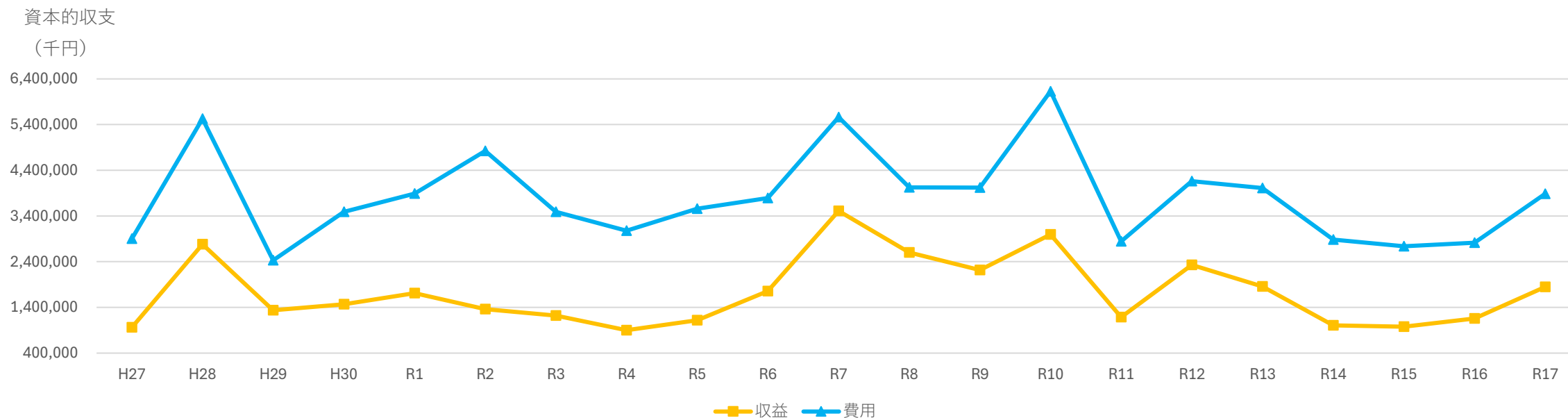


## 収支及び資金残高の状況 (2/4)

直近では令和2年度以降大きな資本的支出はありませんが、今後将来に渡り施設の維持・更新や管路の耐震化等への投資が必要となることから、財源の確保が重要となってきます。

## 【資本的収支の推移】

- ◆ 資本的支出のうち企業債償還元金（支出）は、近年、返済のピークを迎え、7億円～8億円の水準で推移しております。今後は令和10年度に大規模投資が予定されており建設改良費が増加する見込みです。
- ◆ 企業債（収入）については令和5年度まで充当率を50%としていましたが、令和6年度より80%へと引き上げています。今後の経営状況を勘案し、適切な充当率を設定します。

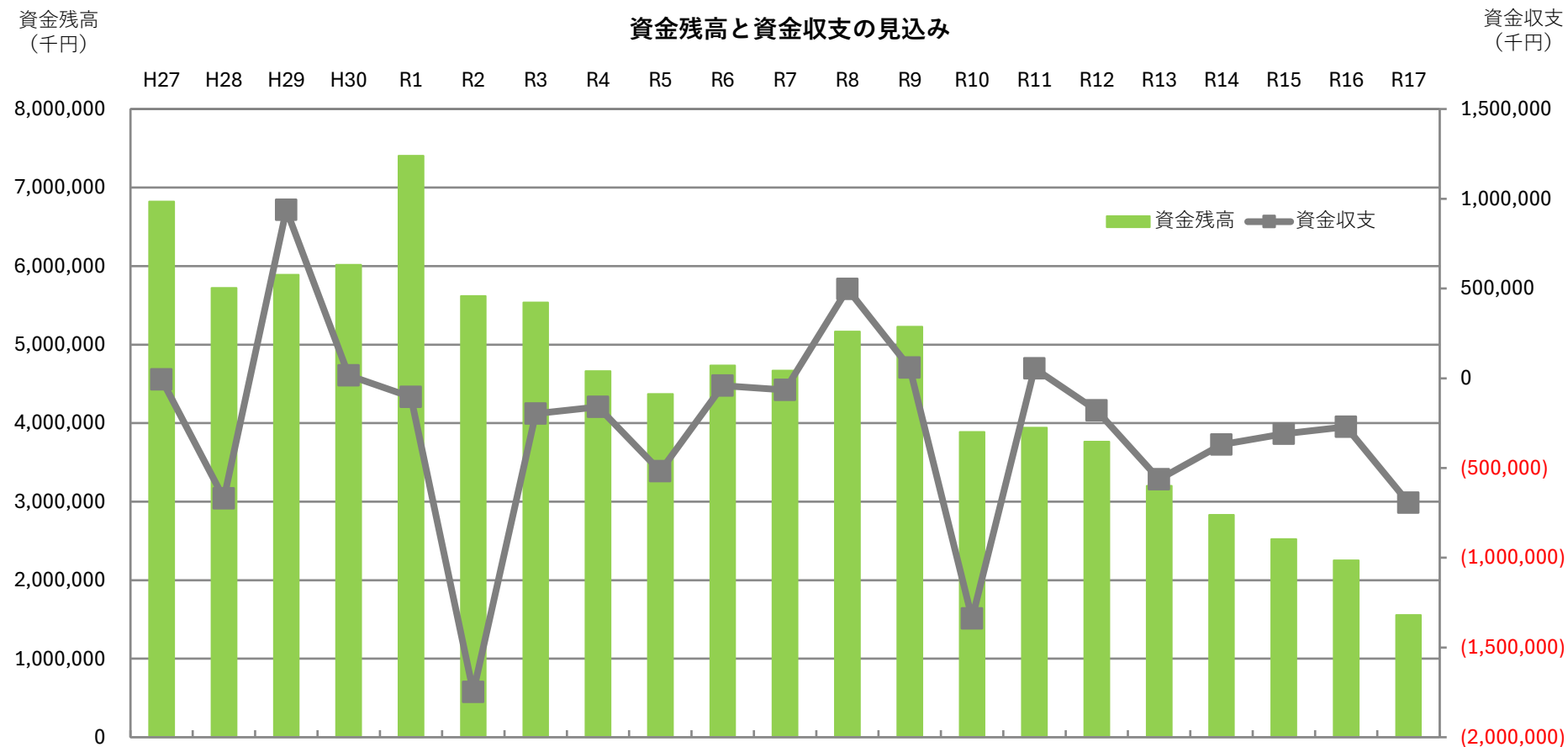


## 収支及び資金残高の状況 (3/4)

収益的支出及び資本的支出が増加傾向にあり、将来資金収支のマイナスが続くことで、資金が枯渇することが予想されます。

### 【資金残高の推移】

- ◆ 資金収支は令和10年度以降マイナスを推移することが予想され、現経営戦略の計画期間の最終年度である令和16年度では、資金残高が23億円にまで減少する見込みとなっています。



## 収支及び資金残高の状況（4/4）

将来の資金の枯渇を補うためにも、企業債の割合を増加させることが必要となり、企業債残高が増加傾向になることが見込まれます。

### 【企業債残高の推移】

- ◆ 企業債残高及び企業債残高対事業規模比率どちらも増加傾向で推移することが予想され、現経営戦略の計画期間の最終年度である令和16年度では、企業債残高が約204億円にまで増加することが見込まれます。

